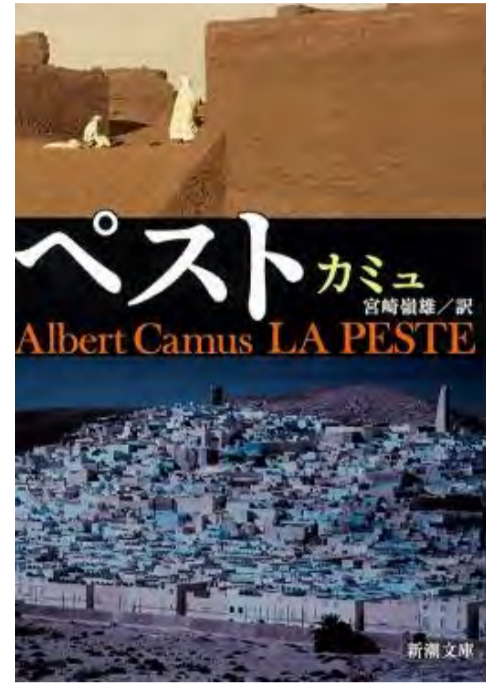


性別マネージャー 不条理のある世界で生きるためのライフハック



各人はその日暮らしに、そしてただ独り天空に対しつ、
生きることをうべなわねばならなかった。[1]



不条理: 生きている世界に疑念を生じさせる全て

不条理の特徴

- 不条理があるかどうか問題(量の問題ではない)
- どこからともなく前触れなく、必然性がなく降りかかってくる
- 特定の誰かを悪役にすることができない
- それでも不条理がなくなると欲しいと願う

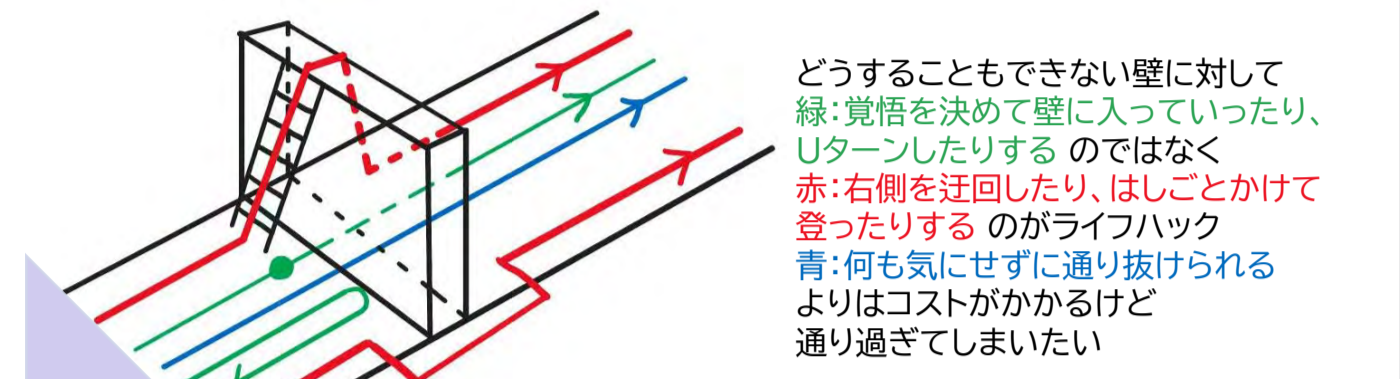
僕が知っているのは、この地上には天災と犠牲者というものがあるといこと、
そうして、できるかぎり天災に与することを拒否しなければならぬということだ。[2]

不条理に向き合うSecHack365

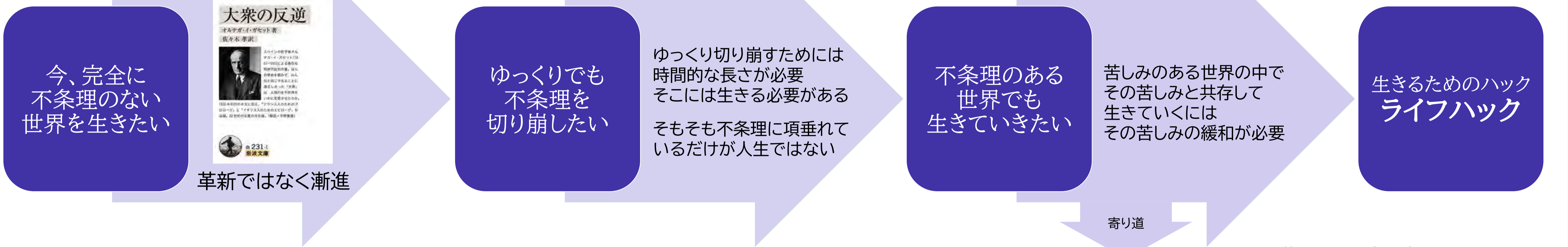
SecHack365応募前
不条理の渦中にある自分

SecHack365応募時
第2回イベント(7月)

第3回イベント(9月)



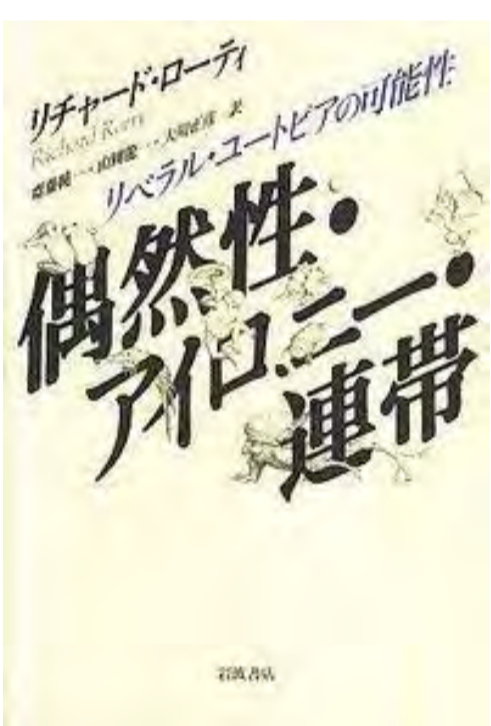
どうすることもできない壁に対して
緑: 感情を決めて壁に入っていく
赤: 右側を迂回したい、しかしことか
青: 何も気にせずに通りたい、
よりコストがかかるけど
通り過ぎてしまいたい



ライフハックは、本当に不条理をゆっくりでも切り崩すだろうか?
不条理をなくしていくためには何をすれば良いのだろうか?

➔ **ライフハックは連帯への一つのルートである**

ライフハック



自分の直面する不条理を
ソフトウェアによるライフハックで
通り過ぎられるようになる

ライフハックで苦しみから
遠ざかった先で不条理を記述し
再生産しないようにする

文学

ライフハックと連帯の相性

今までは、「同じ構造に苦しんでいる」「歴史的に連帯してきた」という同一性を見出して連帯することが多いが、ライフハックが加わることで、「同じライフハックが効く」という同一性から今まで手を組むことができなかった人々と手を組むことができるかもしれない。ソフトウェアは複製も改変もしやすいので、「同じライフハック」を明らかにしやすく、そこに新しい連帯の形を見出したい。

なぜローティに回答したのか?

不条理を変えていきたい願いながら不条理に直面する人間としてローティの「苦しみを受けている人々には言語によって語りうるものはほとんどない」という非常に厳しい言葉に回答したいと思いました。ローティは連帯への道を文学者に見出しました。残念ながら私は文学者ではありません。ソフトウェアを作る人間です。ソフトウェアを作る人間として、私は文学者ではない連帯へのルートを見つけたかったのです。

「苦しみを受けている人々には言語によって語りうるものはほとんどない」という悲しい現実

他者として記述できる文学で他者の不条理を記述する

個人が直面する不条理が私たちの共有可能な形になる

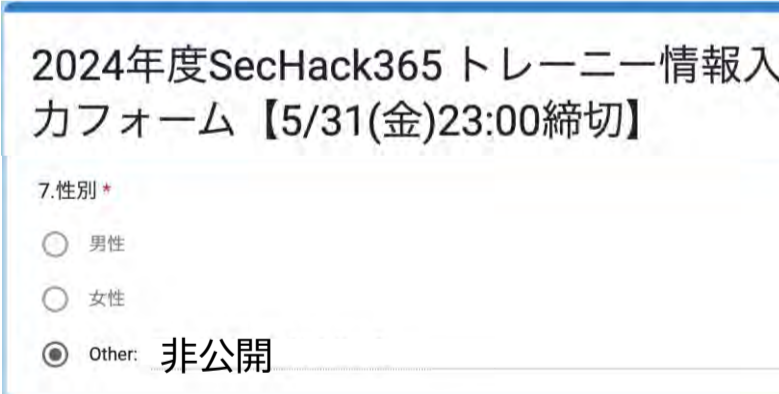
「苦しみ」の中に同一性を見出し個人の不条理を解決すべき残酷な問題にする

性別の不条理に向き合うSecHack365

性別欄という問題

様々な会員登録から様々な場所で交わされる会話まで、日常生活の中で暗にも明にも性別が問われる。性別は問う価値のある情報であり、そしてコストをかけずにある一つの「性別」を回答すれば済むものだと思う。私にとってはそうではない。私は他者に性別という極めて個人的な情報を渡す限り渡したくない。

性別欄を前にして考えてしまうこと
この性別は何のために使われるのだろうか。
この内容は誰が確認するのだろうか。
過去にこの組織に、自身の性別を提示したことがあるのだろうか。これはどのくらい必要で、「真面目に」回答した方が良いのだろうか。これらを考えた上で、最適なものを選びたい。



性別欄の問題を構成する不条理

「性別」はある人にとって特定の値である

あるときにいわれる「性別」は、常に同じものではない。例えば、パスポートの申請をするときに書く書類の性別欄は戸籍に書かれている性別との同一性が大事になる。しかし、街ですれ違った人間の性別というとき、それはその人の見た目と見外見が性別である。端的に「性別」といっても、それは文脈がないとどの性別なのか決めることができないものである。全てが同一である人間には、すでに決定しているものを入力するように思えるのかもしれないが、性別は文脈と演算の結果である。

性別は聞く価値のある情報である

性別を聞くということは、そこに何か意味を感じているからだと思う。マーケティングにしたいとか、宿泊先の部屋割りを考えたいとか、集団の性別の構成比を調査したいとか、一部私が必要性を理解している理由もあるが、基本的には性別が聞く価値のある情報だと思っていない。性別という情報の情報量が限りなく小さくならないように思っている。

性別欄以外の性別の不条理の問題

応募から第2回イベントの前まで考えていた画像処理における「性別分類器」
性別分類器とは主に顔画像を入力として、入力画像に写っている人の性別を主に男性/女性のラベルによって推定するプログラムのこと。広義には人間が生成する情報に対してその生成者の性別を分類するプログラムのことを指す。
性別分類器の構造
1. ラベルが2値であること
2. 性別を見分けて利用すること
3. 他者の性別がある特定の要素から見分けられるという考え

初めての性別欄に遭遇したとき

必須の性別欄のときは選択肢からランダムな値が入る

フォームを送信したとき

chrome.storage APIのstorage.localは通常のconsoleなどでは呼び出すことができない
→ユーザーだけが入れた情報にアクセスできる

拡張機能をクリックしたとき

保存している情報を人間に解釈しやすい形でpop-upで確認できる

パスワードを適切に即座に入力することができない
たくさんパスワードを覚えることができない

性別欄を適切に即座に入力することができない
たくさん性別の入力を覚えることができない

パスワードマネージャー
初めて出会った入力欄には安全なパスワードを入力し記録にパスワードがある場合はその値を入力する

性別マネージャー
初めて出会った入力欄にはランダムで性別を入力し記録に性別情報がある場合はその値を入力する(未実装)

性別欄を自動で記録入力するライフハックツール 性別マネージャー パスワードマネージャーの性別欄バージョン

GPL-3.0ライセンスで公開されているOSS

GPL-3.0とは
GNU General Public License version3 私的/商用利用、複製、頒布、改変などを許可する

なぜGPL-3.0で公開するのか
性別マネージャーを使いたい人がその中身を確認した上で使えるように
欲しい人が性別欄以外の入力欄にも利用できるように改変して使えるように
その改変も他の人が使えるように
同じプログラムが効く不条理に直面する人と手を取り合うために、連帯の可能性を開く

変更しやすくするための工夫
している工夫
性別欄であるかを判定するためのキーワード、テキストインプットの規程入力を入力するプログラムの上部で定義している
したい工夫
改変方法を伝えるドキュメント、動画を作る

Chromeストアで公開されている拡張機能

ストアに公開するための調整
最初の申請: tabsという大きい権限を与えても通った!
2回目: console.logを消しただけに通らなかった
3回目: tabsの権限を小さめのActiveTabに変更して申請が通った!

公開して良かったこと
ストアで「Chromeに追加」を押すだけで使えるようになった
自分以外の人も使っていると明らかにわかるのがうれしい

こんなもので良かった
この拡張機能を作って自分で使っていてほっとしました。何でもなかったと思っただけで、非常にほっとしました。これで良かったんだと思いません。今までどうでもいい性別欄にどんな性別を与えるべきか悩んで、何を聞かれているのかわからなくて、必死に考えて提出したり、最終的にブラウザバックしたり、そういうことを何度もしたのかわからないです。しかしそんなことをしなくても、済んだなって思うと非常にうれしく思います。ああ、性別欄って考えなくても通り過ぎられるんだって思いました。

他者に使ってもらおうことの可能性
ライフハックは連帯につながる。それは苦しみを抜けた人々が自分の状況を記述することで連帯につながる。しかしそれだけではない。性別マネージャーのユーザー数は、性別欄を通り抜けたかと思っただけでこのツールに頼る人の数だ。この数がこの世界の不条理の記述の一つであると思う。この世界にこのユーザー数の同じライフハックが効く不条理に直面する人間がいる。そこに、この不条理のある世界を生きながら少しずつでも不条理を切り崩していく可能性があると思う。

性別マネージャーを今後どうするか

SecHack365では、性別マネージャーを不条理と連帯をつなぐライフハックの実践として開発し、公開しました。その側面も重要な語りです。性別マネージャーは今後も実装していきます。Google Formなどの性別欄かどうかを単純に判断できないようなサイトや別の形式での入力に対応していきたいと思っています。また記録されている性別情報を参照して入力する機能が実装できていないので、その実装をやりたいと思っています。その実装をやることによって、不条理と連帯を繋ぐものという語りだけではなく、自己情報コントロールという文脈で、性別マネージャーについて語ることに挑戦したいと思っています。管理したいけど難しい情報の一つとして、性別という情報について考えていきたいです。